

# アジアの友

The Asia-no Tomo

No. 539

どうして? どうなる?

日本語学校入学希望者の留学ビザ交付率が急降下

山下透さんに聞く

韓国人との向き合い方、そしてアジア放送研究会について





# アジアの友

2019年度7-9月号 第539号

## 目次

	<b>巻頭</b>
2	どうして? どうなる? 日本語学校入学希望者の留学ビザ交付率が急降下 From (公財) アジア学生文化協会
6	国際教育支援事業について「志願処理・学歴判定」業務 国際教育支援事業部 部長 星 明廣
9	会館・学寮事業について「荒川区のお祭りに参加して」 アジア文化会館 館長 水須 善幸
	<b>Special インタビュー</b>
12	山下透さんに聞く 「韓国人との向き合い方、そしてアジア放送研究会について」
	<b>留学生インタビュー</b>
18	ザラディン ファラック (ザラ) さん ~インドネシア
	<b>私の意見私の体験</b>
21	「買けば後悔はしない」カ シューイ ~マレーシア
	<b>学校法人 ABK 日本語学校 2019 年度特別企画</b>
24	協定大学・協定機関特別短期日本語研修プログラムを開催
	<b>コラム 泰日工業大学奮闘記</b>
26	③「タイ・日高校生交流への架け橋」 水谷光一
29	知友会通信
32	MEMBERS

<表紙> 荒川区天王祭 (6月8日 荒川東共栄町会) にて元気に神輿をかつぐ ABK の留学生たち

# どうして？ どうなる？

## 日本語学校入学希望者の留学ビザ交付率が急降下

(編集部)

### 大きく下がった在留資格認定証の公布率

「留学」ビザ取得に必要な在留資格認定証明書<sup>1</sup>の交付率が急激に降下している。ネパールなど一部の国籍の学生に関しては一昨年から審査の厳格化の兆候が表れていたが、2018年10月期申請分からは、まさに急降下の様相を呈している。

特に東京や千葉など、東京入国管理局が管轄するエリアにおいてその状況は顕著のようで、ネパール、スリランカ、ウズベキスタン、バングラデシュ、ミャンマーといった、ここ数年留学生数が右肩上がりであった国籍の学生の公布率は軒並み低下した。

こうした処置がとられた要因としては、今年大きなニュースとなった東京福祉大学留学生の所在不明事件<sup>2</sup>、さらに労働のための新たな在留資格である「特定技能」が今年4月にスタートしたこと、また政府が目標値としていた留学生数30万人を、一昨年達成したことなどが考えられる。

東京福祉大の問題発覚後には、文部科学省と出入国在留管理庁が合同で在留管理を徹底させるための方針を公表し、在留資格審査の厳格化を名言している。

また、資格外活動許可の労働時間制限である週28時間を越えて働く留学生についてもこれまで以上に厳しく調査するとし、資

格取消しとなったり、就職先が決まっても就労資格への変更が不許可となるケースが増加している。

こうした背景から違反労働をする者、失踪者数が多い国の学生に対する審査が厳しくなったと見ていいだろう。

ただしこれまで通り真面目に書類を準備してきた学校担当者からすると、どこに不備があって不交付となったのかがはっきりせず、困惑の声も上がっている。

### 日本語教育機関担当者の声

東京都心で古くから展開する日本語学校の事務局長吉田氏（仮名）は、今年4月期に数名ずつ申請したミャンマー、スリランカについては全く公布されなかったと話す。ベトナムについては例年同様9割前後が通ったが、この10月期分では7割台まで落ちこんだとのこと。それでも他校では5割を切っているところもあると聞き、その点は良かったと振り返る。

「昨年不交付となった理由に、これまでには問われなかった“成績証明書に必要な教師のサインが最終学年のものにしか無いため”、というものがありません。そのため4月期では注意をしたのが良かったのかもかもしれません。」

吉田氏はベトナムについては最低限今の公布率を維持してもらいたいと期待するものの、しばらくは東南アジア、南アジアの学生の募集比率を低め、その分を東アジアに頼らざるを得ないだろうと語る。

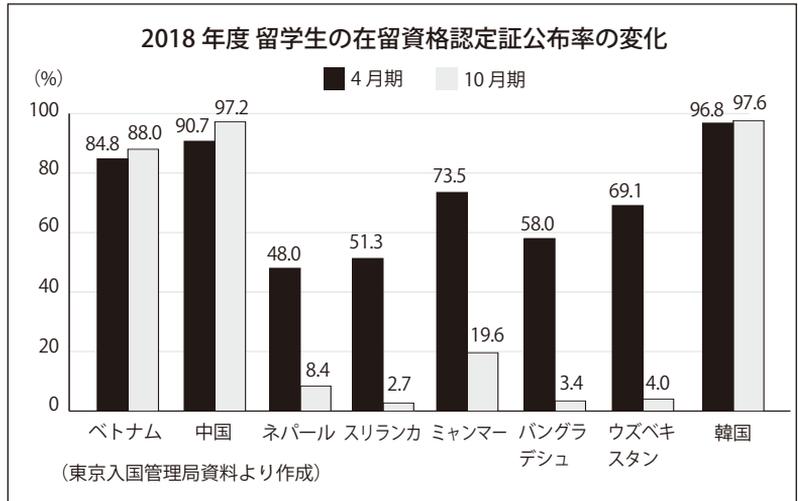
加えて特定の国の不交付率が高いことについては違和感を感じているとも。

「問題のある学生が多い国に絞って一律に減らしてしまうのは楽かもしれません。しかしそれなら今まで築いてきた学校と入管との信頼関係は崩れてしまいます。」

吉田氏はさらに、「これがきっかけで、留学生が日本に来てくれなくなってしまう方が国にとっては損失ではないか」と疑問を投げ掛けた。

いっぽう千葉にある日本語学校の事務長飯田氏（仮名）によると、ベトナムは今年4月期の9割から10月期は5割に減少、ネパール、スリランカなどの南アジア圏については昨年の10月からまったく公布されていないと話す。

「明らかにおかしいですね。大阪は通常通りのようですし、横浜ではスリランカもネパールも出ています。千葉は県全体でゼロかもしれません。特に経費支弁書類に疑義ありというケースが多いのですが、書類は



これまでと同じものを出しています。」

また、これまで訂正印で済んでいたような小さな書き損じがある書類について説明文添付を求められるなど「今回は全般的に厳しかった」と振り返る。ただし同じ条件で公布、不交付のケースがある点については、理解が及ばず困ると言う。

「ある人はN5に受かっていないという理由で不交付でしたが、別の申請者は同じ条件で公布されています。」

このように、入管の担当者による判断の違いと思われるケースには疑問を呈しつつも、今回どういった点が厳しくなったのかを細かくチェックし「書類の不備を徹底して無くせば公布されると信じるしかない」と、次回審査への期待を寄せた。

一方で今回東京ほど公布率は悪くなかったと言われる神奈川のK日本語学校。代表の梶原氏（仮名）は昨年の東京の状況を見て心配をしたとのことだったが、ふたを開けて見れば昨年と公布率は変わらず、特に

スリランカについては申請した8人全員が公布されたという。

「他校の情報で、学歴の部分を厳しく見られたという話を聞いていたので、その部分について注意をして書類を用意したのが良かったのかもしれませんが。ただ今後は募集対象について、考えないといけないうちもありません。」

梶原氏は東京の流れが近いうちに神奈川県にも訪れるのではないかと心配しているものの、あまり細かい審査基準を公表することについては問題があると思っている。

「細かい情報が表に出れば、書類を偽造しやすくなりますから今のような開示レベルであるのは仕方がないかも知れません。ただし、なんらかの基準は必要で、特に入管担当者によって判断が異なるのは困ります。」

東京が今の公布率を維持するとなれば、他のエリアがそれに影響を受ける可能性は高い。来年度4月期申請では、それらのエリアがどのような公布率となるのか注目したい。

### タイでは出国許可に変化も

前出の吉田氏が言うように、今回の急激な措置はこれまで地道に実績を積み上げ信頼を勝ち得てきた伝統校、優良校と呼ばれる学校にとっては由々しき問題だ。

特に東南アジア… ミャンマー、カンボジア、タイ、ベトナム、インドネシアなどから長年にわたって留学生を受入れているある日本語学校では、毎年同様の入学審査、

入学書類を入国管理局に提出しているにもかかわらず、2019年度については不許可の判定を数多く出されている。その主な理由の一つは、やはり“留学生の経費支弁者の経費支弁能力に疑義がある”というものだが、入国管理局からは具体的な理由が示されない場合も多いという。

また、入国管理局だけではなく、タイでは現地の日本大使館や領事館などで留学生として出国許可をする要件について大きな変更があったという。これまで、タイからの留学生については、入国管理局から在留資格認定証明書が交付された場合、大使館や領事館からほぼ100%、留学ビザが取得できたものが、突如として、留学ビザの不許可が続出するようになったという。これは、これまで要件とされていなかった学生の日本語能力について、タイ現地で厳格に審査し、基準に達していない場合は不許可とするように変更されたためだそう。これまで、来日時に日本語能力が不足していたことで、日本での留学中に大きな問題となるタイ人留学生が多数いたのかは定かではないが、この突然の変更にタイから日本に留学を希望している学生や大学などでは大きな不安を感じているという。

今後、日本は特定技能ビザにより、5年間で34万人もの外国人、その多くは東南アジアからの人材の受入を予定している。特定技能ビザ取得の日本語能力要件は、日本語能力試験N4レベル（初級）であるが、彼らのスムーズな日本社会への溶け込みには、同地域からの留学生人材も本来は一役

買ってくれるものと思われる。これらの点からも、突然の東南アジア留学生への在留資格不許可対応には疑問を持たざるを得ないとの指摘がなされている。

### 教育機関を束ねる団体は

各種学校である日本語教育機関が加盟する一般社団法人全国各種学校日本語教育協会（NPJS）の事務局長有我明則氏によると、「日本語学校の数が急激に増えて留学ビザの申請数が増える中、限られた期間・人員で、十分な審査が可能なのか」と、不安を漏らす学校関係者もいるという。

同氏はこうした疑問を少しでも解消するため、「入管から開示される不許可の理由についてしっかり確認し、学校間での情報を共有して、行政機関との連携を深め、日本語教育全体の質の向上に努めるべき」と話す。一方で、地域ごとに公布率の格差があることについては、本来はあってはいけないことだと話す。

「特定の国の、特定の問題のある人たちが、一部地域に集中して申請をする比率が、全国の公布率に比例しているのかと疑問が残ります。いろいろな事情が複合的にあるとは思いますが、もし外形的な問題とは別にこのような状況が生まれるのであれば、その背景を探る必要があります。」

特定技能資格の創設をきっかけに、国は就労率の高い国の留学生数を減らしたいのではという疑念があることについては、高度人材としての留学生の重要性を考えるべきだと言う。

「留学生は高度人材であって、これからの日本にとって非常に重要な人材です。その留学生数を絞ってその分を他のビザの人たちというのはありえない話ですね。留学生としての条件をクリアしている人については積極的に受入れないと、高度人材と中堅・中核人材とのバランスがとれなくなります。」

2019年6月、日本語教育推進法が成立。これに基づいて国の政策としての日本語教育が明確に位置づけられた。有我氏はこれを機に、文科省、文化庁などの国レベルに加え、都道府県行政にも積極的に発信していきたいと語った。

「我々は学校法人と言う各種学校の括りになりますが、その他株式会社の学校もたくさん出ています。そうした新規の学校の中にはいわゆる送りだし機関の言うがままに学生を受入れてしまった学校もあるかもしれません。そういう所の学生が問題を起こした場合、許可率が低いというのはわかります。ですから新規の学校のみなさんが平均値に近づいていくような努力をしていただくこと。そして我々はそのためにサポートする必要があると思っています。」

これまでも入管行政によって大きく左右されることのあった日本語学校の留学生数。来年度4月期の公布率によっては、経営上大転換を迫られる学校が出てくることも予想され、全ての関係者がその結果を注視している。

# From (公財) アジア学生文化協会

## 国際教育支援事業について

### 「志願処理・学歴判定」業務

国際教育支援事業部 部長 星 明廣

#### ■ 志願処理・学歴判定業務とは

国際教育支援事業部では、約10年前から外国人留学生の志願処理業務を行っている。この業務は、日本の大学から外国人留学生の出願書類をお預かりし、大学が募集要項で定めている出願資格、必要書類の要件を満たしているかどうかをチェックし、不備不足、不明点があれば志願者に問い合わせ、最終的に願書を募集要項の要件通りに完成させて大学に納品する、というものである。またその作業の中で出願資格を満たしているかどうかの判定に特化した業務が学歴判定業務である。

日本人の高校生が日本の大学に出願する際は、願書における学歴に関する不明点や疑義、証明書類の不備などは少ないであろうが、外国人志願者の場合、教育制度の違いから志願者出身の高校が必ずしも3年制ではない、教育機関の認可の有無が不明、公式な書類の作成の仕方に対する認識の違いから証明書類をコピーで提出してくるなど、それぞれの国または個人の事情から、募集要項の要件通りに初めから書類が整って提出されることはほとんどないのが実情

である。それを当事業部が書類を整備し、学歴を判定していくのである。

#### ■ 日本の大学の入学資格

少し専門的な話になるが、日本の学校教育法では大学入学資格を第90条第1項で「高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による十二年の学校教育を修了した者」とし、学校教育法施行規則第150条第1号で「外国において学校教育における十二年の課程を修了した者又はこれに準ずる者」と定めている。つまり、外国人志願者の場合も大学への入学資格は日本の学制と同様に小学校から高校卒業までの12年の課程を修了しているか(正確には12年目の課程を修了しているか)、ということが問われる。外国人志願者の場合、各国の様々な教育制度の違いなどから必ずしも12年の課程を修了しているとは限らないため、学歴判定業務では志願者一人一人の学歴を明らかにし、日本の学校教育法で定める条件を満たしているか、また入学希望の大学の募集要項で示されている出願資格を満たしているかどうかを見極め

ていくことになる。

## ■年々難しくなる学歴判定作業

当業務を始めた頃は、日本の大学に出願する外国人留学生といえば約80%が中国、韓国、台湾からの志願者で、日本と同じように小学校6年間、中学校3年間、高校3年間の合計12年間の学歴を持つ志願者がほとんどであったため、学歴の調査に困窮し、出願資格の判定に頭をひねるような案件は少なかった。まれにタイ、ベトナム、バンラディシュなどの志願者が散見された場合も、インターネットで当該国の教育制度を確認する程度で判定ができた。しかし今や、各国の教育制度を把握するだけでは学歴を判定できないほど、志願者のバックグラウンドが多様化してきている。その背景には、日本の大学で英語学位課程の設置が進んだことが大きな要因としてあげられるであろう。英語学位課程は授業が全て英語で行われ、入学考査で日本語力は問われない。従来の外国人留学生の大学への進学経路は、日本国内の日本語学校に在籍して1～2年間の日本語教育を受け、その後大学を受験し、進学するケースがほとんどであったが、英語学位課程では日本語力不問で日本国外から直接大学に出願できるため、志願者の範囲が一気に世界中に広がることとなった。

そうした場合に学歴判定作業がどのように複雑化するかというと、志願者が自身の出身国で小学校から高校まで勉強していた

場合はその国の教育制度を調べればいいのだが、例えば小学校、中学校、高校をそれぞれ別の国で過ごし、さらにはその国の公立の学校ではなくインターナショナルスクールに通っていた場合、果たしてどの国の教育制度を調べればよく、最終的に12年目の課程を修了しているのかどうかはどこで判断すればいいのか、さらには、それぞれの教育機関が公的に認可された教育機関なのか（学歴としてみなせる教育機関か）、という要素が複雑に判定に絡んでくることとなり、こんがらがった糸をときほぐすような作業となるのである。こうなってくると、志願者の属性を「国籍」で分類することがあまり意味をなさなくなり、どんな教育制度、教育機関で学んできたのか、という「教育制度、教育ルート」別での分類によってかわってくる。英語学位課程の広がり、世界中にいるこうした学歴の持ち主に日本の大学志願へ目を向けさせたのである。

## ■教育カリキュラム、履修課程まで見極めなければ

通常、小学校、中学校、高校はその国の政府が法令（日本では教育基本法）で定めた教育を行っているが、志願者は必ずしもそうした「正規の学校」に通っている者ばかりではない。私立の教育機関、専門学校、予備教育機関、塾、フリースクール、ホームスクール、通信教育など、様々な形態で教育を受けている。その場合、その教育機関で受けた教育が学歴としてみなせる

のか、その学校や提供されている課程は政府や自治体から認可を受けているのか、高校レベルの教育なのかなどを明らかにしなければならない。そしてその作業は非常に困難を極める。その教育機関に直接問い合わせればもちろん「ウチの教育は正規のものだ。卒業生は世界中のいろんな大学に進学している！」と言われるのであるが、その裏付けがなかなか取れない。たいていの場合、当該国の政府機関のウェブサイトを見ても、そうした教育機関の認可については掲載されておらず、直接に政府機関に問い合わせても、ほとんど回答が返ってこない。「その国の大使館に確かめよ」と文科省のウェブサイトにも書かれているが、大使館から教育機関の種別や認可について正確な情報を得られることは稀である。さらに近年では、教育ディベロッパーともいべきビジネスグループが「アメリカ式カリキュラム」、「イギリス式カリキュラム」なるものを公立の高校に販売している場合もある。それらは、高校自体は認可されていても課程はどうなのか。果たして修了後に本当にアメリカの高校生と同様の「High School Diploma」が得られるのか、イギリスの教育資格が取得できるのか、についてはよくよく調べてみないと分からない。

当事業部では、こうした難案件について、根気強く現地の政府関連機関や欧米の教育資格評価に関する専門機関などにコンタクトを試みながら、じわりじわりと判定結果を導き出していくのである。

## ■留学生受け入れ側に求められる世界対応

この学歴判定業務は非常に手間と時間のかかる作業である。もし大学のアドミッション窓口で大学職員が他の業務も抱えながらこうした志願処理をしなければならないとしたら、それは相当の負担になるのではないかといつも心配してしまう。しかも受験票発送までの短時間で正確な判定を出さなければならないのである。少なくとも不明な学歴があった場合にどうやって調べればいいのか、どこに問い合わせればいいのか、どういう聞き方をすれば求めている回答を得られるのかなどを熟知しておきたいものであるが、知識、経験を積んだ頃に人事異動が発生してしまう大学の現場では、部署内でなかなか先人の知見が積み重なっていないのは残念で仕方がない。全世界を射程距離に定め、広く世界中から学生を集めようとすれば、受け入れ機関側も世界基準、世界対応にシフトしていかなければならないし、志願者から見た場合、進学先の決定は日本国内の大学どうしの比較ではなく、他国の高等教育機関との比較となることから、大学の世界対応は必然的なことと言えよう。

また、先にも述べたように日本の大学の入学資格は学校教育法という法令で定められているが、これは世界のあらゆる学歴バラエティに対応できるほど万能ではない。条文に当てはまるのかどうか、どの条文に当てはまるのか（あるいは当てはまらないのか）については、どうしても評価者の解

釈や見解が発生してしまうし、最後は受け入れ機関が責任を持って入学資格を「認める」のか「認めないのか」を判断しなければならず、そこには必ずそのように判断した「根拠」が求められる。

## ■全ては志願者のために

立ち返って、当事業部での学歴判定業務であるが、上述した大学の事情を鑑み、少しでも大学アドミッション業務のお役に立てればという思いで、日々業務に取り組んでいる。また、志願者の学歴についてはほとんど調べた。どんなに複雑な学歴であっても必ず明らかにするという気持ちである。学歴が不明だったために（例えば、学

校の公的な認可の有無が不明だったなど）、結果的に大学に出願資格を認めてもらえなかったということは絶対に防がなければならない。学歴を明らかにした結果、残念ながら法令の条文に当てはまらない場合は仕方ないが、解釈や見解の余地があるような場合、そうした学歴を教育機関が独自の審査基準によって「受け入れる」と決めることは受け入れ側にとって覚悟がいることなのかもしれないが、私たちは、その志願者の最終学歴が日本の大学入学レベルとかけ離れていない限り、少なくとも出願資格は認められるよう、その志願者の今まで学んできた経歴を尊重するような視点で学歴を調べ、これからも学歴判定業務を行っていく所存である。

---

## 会館・学寮事業について

### 「荒川区のお祭りに参加して」

アジア文化会館 館長 水須 善幸

**荒**川区にやまぶき寮という留学生宿舎をオープンしたのは2004年4月。荒川区所有の施設を借り上げて、留学生専用の宿舎として運営しています。留学生が安心して生活できる住環境を提供すると同時に、地域の国際交流に貢献する役割も担っています。そして国際交流の一環として参加している地域行事が、毎年6月に行われている天王祭です。やまぶき寮は荒川東共栄町会に属しており、寮生はこの町会のお

神輿を担がせていただいています。

今年は6月8日（土）に開催が決定。今回はやまぶき寮の留学生以外に、かわいいお客様が特別参加。ABKのOBであるニンさんが、ベトナムから15名の子供を引率して日本体験ツアーに来ていました。日本のお神輿を是非体験させたいということで、お神輿の集合場所に子供たちを連れてやって来ていたのです。公園のテントで準備している町会のみなさんの前に並んだ子

供たちは、習ったばかりの日本語で自己紹介をして、合唱まで披露。8歳から15歳までのかわいい子供たちを前にして、地元のみなさんも笑顔で歓迎してくれました。

実はこの日、やまぶき寮の卒業生が参加する予定でした。彼女がかつてタイの留学生として来日。やまぶき寮に滞在中、お祭りに参加したのが縁で、地元の方との交流が始まり、今でもお祭りの季節になると連絡をとっているということです。あいにくこの日は出産を控えているということで参加できなかったようですが、やまぶき寮から離れても地元の方との交流が続いていることを知り、驚きとともに大変温かい気持ちになりました。

ABKはやまぶき寮を含め、現在8つの寮を運営しています。以前は外国人が来ると治安が悪くなるなどと言われ、留学生寮に反対する住民の方が少なからずいらっしゃいました。今は訪日する外国人が増え



町内会の祭りに参加したベトナムの子供たち

て、コンビニなどでも見かけないことはないくらい身近に接するようになりましたが、当時はまだ偏見が残る時代でした。文京区内で女子寮を立ち上げた時は、寮生全員で料理を作って近隣の方を招待し交流会を開催。留学生が来ることに不安を持っていた方も、「実際に会うと娘と同じだ」と安心された様子でした。

話は戻りますが、やまぶき寮生が参加しているお神輿は、しばらく担ぎ手がいなかったとうかがっています。留学生によってお神輿が復活して地域に貢献できたのであれば、これほどうれしいことはありません。

これからも若い留学生がいることによって、地域に安心が生まれるような学生寮を運営していきたい、そう気持ちを新たにす一日となりました。



■ 荒川区天王祭 日時：6月8日（土）16時 場所：荒川東共栄町会 参加者：35名

会館関連の行事6月～8月

■第7回卓球大会

日時：7月26日（金）16時30分？ 場所：アジア文化会館卓球場 参加者：7名  
優勝：CHAU KWAN HO 周君豪<香港、男>（写真右2人目）  
準優勝：LAU HO TONG 劉浩棠<香港、男>（写真左端）



■第7回カラオケ大会

日時：7月26日（金）18時00分 場所：アジア文化会館地下ホール 参加者：9組11名  
優勝：LIONG JOE SENG 梁祖承、マレーシア、男（写真前列左）



■東京後楽ロータリークラブ浴衣贈呈式

日時：8月2日（金）18時30分～ 場所：アジア文化会館1階ロビー 参加者：7名

■富士神社盆踊り

日時：8月2日（金）19時～ 場所：富士神社 参加者：15名程度



アジア放送研究会会長 ラジオアナウンサー 韓国語講師

## 山下 透さんに聞く

### 韓国人との向き合い方、そしてアジア放送研究会について

ラジオ好きのお父様の影響で聞きだした短波による海外放送（BCL）。遠く離れた大陸から聞こえてくる日本語放送の虜となった山下少年は、BCLの魅力に取りつかれるとともに、次第に美しい日本語を話す外国人アナウンサーに憧れを抱くようになっていく。そして自分も美しい外国語を操れる人間になりたいと決意。韓国語の学習を開始する。それからおよそ半世紀、昨年12月には標準韓国語の普及に貢献したとして「2018 韓国アナウンサー大賞 張基範賞」を受賞。その美しい韓国語は母国のアナウンサーたちにも認められるものとなった。

そんな山下さんは高校生の頃からこれまで200回以上韓国に渡り、現地の様々な人々と交流を重ねてきた。そこで今回は徴用工の問題を発端とした日本の輸出規制発動がきっかけで始まった韓国の日本製品不買運動や悪化する日韓関係について、長年の体験の中から韓国、韓国人についてお話を伺うとともに、山下さんが会長を務め今年40周年を迎えたアジア放送研究会についてもお話しいただきました。



(やましたとおる)

韓国語放送アナウンサー兼ディレクター、亜細亜大学韓国語非常勤講師、ABK アジアセミナー韓国語非常勤講師

1973年12歳の時KBS国際放送（日本語放送）韓国語講座で韓国語を始める。1976年月刊誌『ラジオの製作』に「中級BCLのための語学講座 - 韓国語放送を聞いてみよう」執筆。1979年天理大学入学（韓国語専攻）。初の韓国旅行でKBS国際放送局訪問。1983年（株）東急観光入社、韓国人の海外旅行を主に担当（2014年退職）。著書に『KBSの韓国語 ラジオドラマ』（翻訳 アルク）、『韓国のことがマンガで3時間でわかる本 - ヘーそうなのか！』（アスカビジネス）など

## 日韓衝突と韓国人のこと

—— 1965年の国交正常化以来、最悪とも思える日韓の政治的対立は、互いの経済、文化交流にも大きな影響が出ていますが。

不買運動や反日運動なども、もともとの民俗的なものがいろいろと重なり合ってそれが一つのパワーになっています。韓国は地域性というのが強く、地域によって政治的な差別のようなものを受けているなど、地域間での対立などもあるわけですが、対日本ということになるとまとまるんですね。ただ不買運動の実害は韓国の方々にも多く出ています。日本への旅行を自制すると、まず困るのは韓国の旅行会社ですし、ユニクロにしても韓国ユニクロの社長は韓国人で従業員のほとんども韓国人です。ダイソーは日本のブランドを使っていますが韓国の会社ですし、売っているものもメイドインコリアが多いですから。

—— 韓国人はどのような民族だと思われてますか？

やはり熱い民族だと思います。韓国人はプライドが高く折れたら負けのように考えているところはあります。ただしプライドが高くて生意気というふうではありません。自分に対する意識がしっかりしているということでしょうか。それぞれの意識が高いので、韓国人同士でもお互いによくぶつかります。また韓国人は我々という意味の「ウリ」という言葉をよく使います。私たち日本人は韓国の言葉を「韓国語」と呼

びますが、韓国人は韓国語とは呼ばず“我々の言葉”と言うんです。母国のことも韓国ではなく、普通「ウリナラ＝我が国」としか言いません。常に「ウリ●●」と使うんです。同時に「同胞」とか「同族」といった表現もよく使われますね。

韓国語は縮約語と言ってつづりを縮めてあることが多く、単語がきゅっと縮まっているのですが、ぐずぐずしているのが嫌い。でせっかちな韓国人の性格にもよく現れていると思います。

—— いま日本でも大人気のK-POPや韓国の俳優などを見ていても、日本と比べ非常にプロフェッショナルの印象が強いですが。

自己アピールがしっかり出来ますね。とにかく他の人には負けない、一歩前に出ると言う気持ちが強いです。容姿がただけでスカウトされたというのではなく、本人がエンターテインメントの仕事に就きたくて、まず練習生となり、厳しい訓練を積んで舞台に立っています。一般社会でも、例えば会社の面接では、韓国人の人は自己PRのための資料一式を持って持って来るほど、自分を売り込むための努力をしています。

—— 個々人の意識はバラバラだけど、対日本になるとまとまるんですか。

過去には虐げられてきたことに対しての反発と言うのもあったのですが、今は割と自由なものが言えますから、それを表立って出してくるというのはあると思います。もちろん「未来志向の対話を」と言う

人たちも大勢いますが、大勢<sup>たいせい</sup>という流れで言うと、今の状況はそういう人が意見を言いつらい環境にあるわけです。だから本音と建前なんですね。本音は日本に良い意味で興味がある、感心があるけど、こういうことがあると周りに合わせざるを得ない。個々人は何も言えない“雰囲気”になっているのだと思います。韓国の人というのは、一人はみんなのために、みんなは一人のためにといった、強い仲間、共同体意識があります。個人個人、それぞれの意見は分かれるのですが、仲間に何かあった時は団結する。ですから今回の日本製品不買運動もみんながやりたくてやっているというよりは、周りに合わせているということも多いと思います。

—— 韓国は対中対応、対日対応が違うとよく言われていますが。

中国の属国であった時代のことも、過去の歴史の中で学んではいます。しかし歴史上の話というだけで、今に引き摺っていない。今生きている世代となると日本の植民地支配時代の方々ですから、どうしてもそこに焦点が当たってしまうわけです。また、中国で生まれた文化や文字などのあらゆるものが朝鮮半島を通じて日本に伝わったということで、彼らからすると序列としては中国、朝鮮、日本なんです。ですからある意味、自分たちより後であるはずの国に侵略され虐げられてプライドを傷つけられたという思いがずっと引き継がれているのではないのでしょうか。

—— 韓国の学生が政権が変わるたびに

国内外政策がよく変わると言っています

が。  
政権が変わるたびに総入れ換えになり、前の大統領が逮捕されたりすることも多いですが、まさにその通りで、何か政治的に困った時には矛先を日本に向ければという所があります。今の文在寅（ムン・ジェイン）大統領も経済政策や対北朝鮮問題がうまくいっていないところもありますから…。

ただそこは単なる逆恨みではなくて、過去を忘れないで語り継いでいき、日本に対してはそれを理解して欲しいという思いが多分にあります。ですから対話の必要性といますか、向こうが言いたいことを言わせてこちらはそれを聴いてあげるという姿勢は必要だと思います。ただ、それが頻繁に繰り返されていることは確かで、両国政府間合意の下に設立された慰安婦支援のための「和解・癒やし財団」も解散させてしまいましたし、それじゃあいったいどうすればいいの？といった感じはありますね。

—— 山下さんが初めて韓国に行かれてから、韓国は大きく経済発展を遂げてますが、それに伴う変化というのは感じますか？

具体的な変化は感じたことはありません。私が初めて韓国に行ったのは40年前の1979年で、朴正熙大統領の最後の年でした。当時から韓国の人というのは話し好きで、いい意味でも悪い意味でも俺の話を聞いてくれといったところはありました。それは今も変わっていませんし、日本人に

対する印象や、接し方なども大きくは変わってないと思います。

たしかに国の経済力は格段に上がりましたが、今は経済が落ち込んでますから働いていない人もけっこういます。まともな就職ができるのは一流大学を出た人だけで、あとは非正規雇用が大部分です。大学の数が相当増えているというのもその一因です。就職先はあっても賃金が安いなど、日本と比べると多くの問題が残っています。

—— 山下さんは韓国人のどんなところが好きなのでしょうか。

いろいろとありますが、付き合っていて面白いですね。相手との距離が近くて意見があれば何事も我慢せず言ってくる。日本人として、それを受け止めることができるかどうかはその人次第ですが、厚かましいとか図々しいと思ってしまうとダメですね。こちらがそれを受け止めてあげないと韓国人は日本人は冷たいと思うかも知れません。

もちろん同じ東アジアの国ですから日本人と共通するところは多いと思いますし、欧米に比べれば理解し合える、心が読みやすい部分はあると思います。初対面の人には壁を作りますが、壁を作っているなあとすぐにわかりますし、会って話せば話すほどその壁は低くなっていきます。



2018 アナウンサー大賞授賞式で李季振氏からトロフィーや副賞などを授与される山下透さん（2018年12月28日）

—— 何度も会って壁を低くしていくことが大切ということですね。

なんでもその場で結論を出そうとすると、どちらかが謝る謝らない、折れる折れないということになって消耗するだけです。1965年の国交正常化のときは解決が難しい部分についてはお互いわかっていてうやむやにしたと思うんです。また当時はアメリカが完璧に介入していて、合意のデッドラインが決まっていたので、自然とそういう流れが出来たという良い部分もあったと思います。今のアメリカ、特に大統領は自分たちの利益にならないことには関わらないと思いますが、今後安全保障問題に関わってきたらどうでしょう。

とにかく日韓の関係者がお互い顔を突き合わせて話し合うこと。まずはそれをしてしなければ始まらないでしょう。

## 40周年を迎えた アジア放送研究会について

—— 山下さんを韓国に駆り立てて行った海外放送と関連して、山下さんが現在会長を務めるアジア放送研究会についてご紹介していただけますか。

アジア放送研究会は私が大学1年生だった1979年に、私と同じくラジオで海外放送を聞くことを趣味としていた仲間5人で作りました。

会員は日本、韓国、北朝鮮、中国、台湾、香港、モンゴルの国際放送を聞いて、それぞれのテーマのもと様々な研究を行っています。

研究発表の場としては、まず会報の「アジア放送研究月報」を毎月出していて、この8月に478号を発行しました。それから年に一度、夏に「近隣諸国放送研究フォーラム」を開催しています。ここには一般の方も参加しています。今年は約40名の参加がありました。

—— フォーラムではどのような発表が行われているのでしょうか。

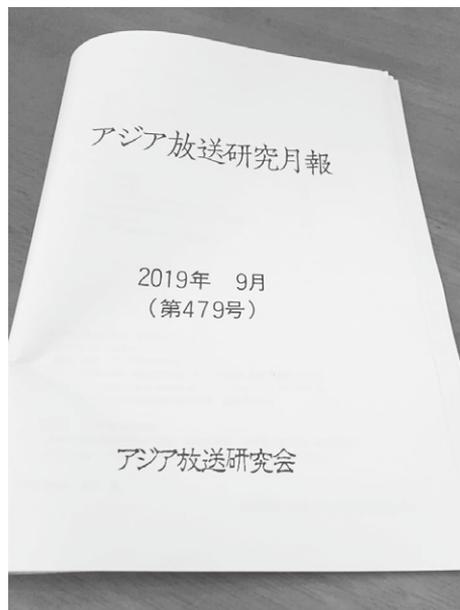
フォーラムは放送を通じて各会員が、それぞれのテーマで行ってきた研究を発表する場で、一人30分の発表、5分の質疑応答という形で行っています。今年面白かったのは、AFNという、昔のFENと言ったほうがわかりやすいと思いますが、その米軍放送に関する話で、「AFNが台風が来た時に放送でどんな警報を出すのか、その伝え方の事例研究」といったものがありました。

とにかく重箱の隅をつつくような、普通の人には思いつかないようなテーマが多いので毎回楽しみです（笑）。

—— 短波放送というと各国とも衛星放送やインターネット等の普及で減少傾向にあると思いますが。

たしかにこの20年で激減しています。NHKも昔は英語放送を24時間やっていましたが、今は1日4-5回だけになっています。

北朝鮮のミサイル発射のニュースなどは、今は各局とも北朝鮮の衛星放送を勝手に録画して使っていますが、昔は短波放送を傍受するか、北朝鮮にお金を払って映像を送ってもらうかといった選択しかなく、短波放送は相手の国情を知るための貴重な情報源でした。ちなみに、会員の中には当時、北朝鮮からの映像入手の交渉を行って



「アジア放送研究月報」

いたテレビ局員もいるんですよ (笑)。

短波放送が世界的に減っているのは確かですが、東アジアに限っては中国と台湾、韓国と北朝鮮などの情勢から、それぞれの国が政治的な主張を一方向的に流すプロパガンダ放送を今でも短波で流しています。

—— 放送の減少と共に短波が受信できるラジオも減ってきていますね。

今はラジオ以外にも短波放送を聞く方法があって、例えば世界各地のファンがアンテナとインターネットに繋がるシステムを地元を設置して、世界中の人が自分のPCやスマホのブラウザを使って、その地域で受信できる放送を開けるようにしてくれているんです。そうした装置が今、世界40カ所以上に置かれていますから、私たちは膨大な数の放送を聞くことができるというわけです。

そういったこともあってか、新たに興味を持つ人は多いようで、この夏には入門書である「BCL マニュアル」(電波新聞社刊)の改訂版が40年ぶりに出版されました。私も40年ぶりに執筆したんです (笑)。

—— 40年前にも執筆していたというのは驚きです。放送は減ったけど、受信できる地域は過去とは比べ物にならないくらい広がったということですね。

そうですね。同時にもう一つの恩恵とし



フォーラムで講演をする山下さん

て、昔はラジオ放送の録音というと一度に一つの局だけしかできななかったわけですが、このシステムを使うと低い周波数から高い周波数まで、その瞬間の放送をまとめてハードディスクに保存しておくことができるんです。それを5分または10分ずつ、一時間置きに録っておけば、あとでどの周波数でどんな放送が流れているのかを一つずつ確認することができます。

例えば房総半島の先端にその受信装置を持ち出して録音しておいて、帰宅してからその録音をパソコン上で解析するように聞くと、遠くの国の放送が雑音の合間で聞こえていたなんてこともあるんです。

—— BCLの楽しさが伝わってくるお話です。本日は様々な話題についてお聞かせいただき、ありがとうございました。

アジア放送研究会

<http://www.abiweb.jp>

## 留学生インタビュー //

# インドネシア留学生協会のこと 日本留学で考える大切なこと

**ザラディン ファラック (ザラ) さん** < DZARADIN FALAQ >

東京工業大学 融合理工学系地球環境共創コース (修士課程)



**ザラ:** 毎年行う中で最も大きな行事は10月に行われる「東京工業大学インドネシア・コミットメント・アワード (TICA)」というものです。TICAはインドネシアの大学で科学・技術を専攻している学部生が対象の論文コンテストで、応募された論文を東工大の博士課程で学ぶインドネシア人留学生が審査し、表彰するというものです。昨年は

200本以上の論文が応募されました。

ベスト5に残った論文の執筆者=大学生は日本に招待され、東工大のホールの壇上で、聴衆を前にそれぞれの論文を発表します。そして最後に順位が発表され表彰が行われます。このコンテストには東工大の先生や、ゲストの講演もあって、今年はインドネシアの大蔵大臣が来られます。もちろん開催にはお金がかかるので、インドネシア政府、東工大からも助成をいただいています。

**編集部:** とても本格的なんですね。どのような意図で行われているのでしょうか。

**ザラ:** 私たち日本で学ぶインドネシア人

**編集部:** ザラさんは東京工業大学 (東工大) で在日インドネシア留学生協会に所属されているようですが、協会の活動はどのように行われているのですか。

**ザラ:** 在日インドネシア留学生協会は一つの組織で、各地域に支部もあるのですが、実際の活動はそれぞれの大学単位で行っています。東工大のインドネシア留学生協会は、日本の大学で3番目に大きくて、現在190人ちょっとの学生が所属しています。ちなみに一番はAPU、2番目は広島大学です。

**編集部:** 東工大インドネシア留学生協会主催の主な行事を教えてください。



TICA2018で壇上に並んだ発表学生とゲスト



TICA2018で表彰式される発表学生(左)

留学生はいろいろな形で日本に来ていて、インドネシアや日本政府の奨学金で日本に来ている人も大勢います。そしてみなそのことに感謝の気持ちを持っています。ですから、このコンテストはそれに対する恩返しの意味があるんです。インドネシアの大学生がコンテストを通じてより高いモチベーションで研究に取り組むきっかけになったり、日本に来て東工大の施設を見学してもらい、日本で学ぶインドネシア人留学生と交流することで、自分たちもがんばって日本に留学しようと思ってもらえたりすれば、それはインドネシアの発展に貢献することになります。そして、実際にコンテスト参加者の中から日本に留学する人が出ていますから、日本にも貢献できると思っています。

**編集部：**素晴らしい発想ですね。では留学生協会があることの良い点は何だと思えますか。

**ザラ：**一番のメリットはやはりインドネシア人留学生同士が交流できることです。日本には今6,000人以上のインドネシア人留学生がいますが、まだまだ日本に来られ

るインドネシア人留学生はごくわずかです。ですから選ばれた私たちは将来お互いに協力して国のために何か役立つことが出来るかも知れません。その時のために今交流をして、深い関係を築いておくことは重要だと思います。

**編集部：**インドネシア人留学生が抱えている悩みとしてはどのようなものが多いですか。

**ザラ：**一般的に一番多い悩みは就職のことですね。大学院で学ぶインドネシア人のほとんどは日本語が上手くありません。日本で就職した先輩によると、日本語ができないと仕事を得るチャンスが少ないと言います。IT系の学生は日本語ができなくてもそれなりにチャンスはありますが、それ以外、特に文科系の学生はみな言葉の問題にぶつかっています。

**編集部：**ザラさんは日本語が上手ですが、特別ですか？

**ザラ：**私は2017年度の日本政府奨学生として来日しました。その時私と同じように採用されたインドネシア人留学生は全部で30人でしたが、1年間日本語学校で勉

強する機会をもらえたのは、私ともう一人の2人だけでした。ですから、日本語が上手な人は少ないですね。インドネシア人留学生の場合、10人のうち1人か2人がよくできるという感じです。でも、50%以上の人は日本で就職したいと言います。東工大には日本語のボランティアクラブもありますし、留学生向けの正式な日本語の授業もあります。ただ、私も参加していますが、日本語学校の授業に比べるとやはり密度が違いますね。日本語学校在学期間は日本語学習に集中できますから、頭に残るものがたくさんあるんです。

**編集部：** 今、大学はグローバル化ということで、英語で学べるコースが増えていますが、どう思いますか？

**ザラ：** 友人の何人かがそうした英語コースで学んでいますが、みな口を揃えて「授業はわかりやすく簡単なので卒業はできそうだけど、あまり深い知識は学べていない気がする」と言います。その理由の一つは、日本人の先生が英語で授業をする場合、やはり日本語での授業に比べて、深い部分まで伝えることが難しいからではないでしょうか。教材も、日本では日本語で書かれたものの方がより詳しく深く学べます。

**編集部：** やはり日本留学では日本語を避けて通るべきではないということですね。

**ザラ：** 今、インドネシア人の人気留学先は、距離が近いオーストラリアが一番で、次にアメリカ、マレーシア、イギリス、日本の順番だと思います。もっと日本の人気を上げるためには、留学生が日本語を学びやすい環境を作るべきだと思います。

**編集部：** ザラさんが日本に留学しようと思った理由を教えてください。

**ザラ：** 実は学部生の時は留学したいと思ったことはありませんでした。私は在学中から友人と小さなビジネスをしていたのですが、それがうまくいかなかったことでチャンスがあれば留学したいと思ったんです。新しい知識を学び、ビジネスで役立つ人間関係をつくりたい。留学をすればそうしたものが手に入るかもしれないと思いました。留学先は、父が元日本留学生だったこと、私自身漫画やアニメが大好きだったことから、日本以外は考えませんでした。

今、日本では自分の思った通りの留学生活が歩めています。インドネシア人の先輩、日本人の友人、他国の留学生…人脈もたくさん作れて充実した毎日を過ごしています。

**編集部：** では、日本留学を後輩のインドネシア人学生に勧められますか？

**ザラ：** 勧めたいですね。インドネシアでは何事も時間通りではない、ルールもあまり守らず、社会がとてもルーズです。日本は逆に厳しすぎるほどルールに厳しい。私はその真ん中くらいの社会、人間が理想だと思います。だから日本に留学して日本社会や日本人を学んで、良い所を取り入れる。そして将来国に戻ればちょうどバランスの取れた人間になることができるのではないのでしょうか(笑)。

父も元日本留学生なので、私たち家族が見本となってインドネシアの人々に日本の良さを紹介していきたいと思っています。

**編集部：** ありがとうございます。

# 貫けば後悔はしない

カ シューイ (Hoh Shu Yee) ~マレーシア

中央大学 理工学部都市環境学科3年



## イメージとのギャップ

日本に来て思ったのは、外国人が日本人に抱いているイメージと実際の日本人は違うということです。日本人はすごく真面目で頭が固い、常にルールを守って暮らしているというイメージがありますが、実際学校やアルバイト先などで日本人と接していると、割とずるい所もあるなあと感じます(笑)。ただ、そこは臨機応変と言うのか、本当に守らなければいけないところはきちんと守る、そうでない時は融通を利かせる。そのバランスがとれているなあと感じます。

それからたまにバイトや学校の仲間と飲みに行ったり、所属している国際交流サークルの合宿に参加したりするのですが、みんな真面目な反面クレージーな一面も持っていて、遊ぶ時は全力で遊びます。そういうところは意外というか、今の日本人

はいくつもの顔を持っているようで面白いなあと感じます。

また、始めて会った人でも日本人は普通に喋ってくれますね。私は接客のアルバイトをしているのですが、お会計の時にお客さんのお婆ちゃんが気軽に話しかけてきてくれるなど、けっこうみんな暖かいなあと言う印象です。

一方で、本来は礼儀正しいはずの大人たちが、通勤時の電車では無言で押し合いへし合いしていますが、あれはどうかかなあと感じます。そういう時こそ、一言「すみません」といえばずいぶん空気が変わると思うんです。そういう場面を見る機会が多いのは残念ですね。

## 辛かった最初の2年間

実は大学に入って最初の2年間はけっこう辛い時間でした。

その理由の1つは私自身にあって、私はいろんな人とベ

タベタとつるむのが苦手な性格だったので、大学に入る時も個人主義で行こうと、あまり仲間を作ろうという意欲は持っていませんでした。ですからクラスに徐々にグループが出来あがっていても、あまり深く交流を持とうとしなかったんです。でも時間が経つにつれてみんなと交流する機会が増えてくると、一緒に行動するのも悪くないなあと感じるようになっていきました。そして、2年生の時は意識してみんなとの交流をがんばってみたのですが、なかなか思うように行かない。助けを求めて断られたりすると悲しくなっていて、「私たちはお互い相手に心を開いて接しているのかな?」という疑問が生まれ、それがストレスになっていったという感じです。

でも2年生も後半になるとお互いに相手のことがわかるようになってきて、徐々に良い方向に変わって行ったんです。そし



中央大学生が地域のお祭りの  
お手伝い（前列右2人目）



大学の国際交流サークルの  
合宿に参加（後列左端）

て今、3年生になってとても良い感じ、本当に仲の良い関係になれたと感じています。

マレーシア人はよくノリで「家に遊びに来いよ、料理を作って楽しもうよ」と、それほど親しくない相手でも気軽に誘います。そして誘われた方は本当に遊びに行きますし、その結果本当の友達になることが多いです。

でも日本人の場合は少し仲良くなっても、簡単には家に招いてはくれませんね。一人暮らしの人はまだしも、実家に住んでいると家族がいるから恥ずかしい…みたいなどころがあります。マレーシアは家族がいれば逆にお母さんがもてなしてくれるからありがたいという感じでしょうか（笑）。

日本ではそれは小学生の時までだそうですが、友人とのプライベートでの線のひき方、

距離の取り方がマレーシアとは違いますね。日本人の場合は本当に仲良くなるまで時間がかかる。そして仲良くなれば最大限受入れてくれるという感じです。それが分かるまでは、寂しく感じることもありました。

### 大学にひとこと

最初の大学生活が辛かったもう一つの原因は授業のことで。私は環境のこと、“水”のことを学びたくてこの都市環境学科に入学しました。理由は単純にマレーシアの飲料水や河川の水質の改善をしたかったから。そして海外の様々な河川調査など、世界に出て活躍したかったからです。ただ私の専攻は都市環境ですから、実際には地盤、建築、橋梁、コンクリート等、都市環境に関わることを学ばなければなりません。

中には全く興味を持ってない分野もあって、そこをしっかりと学ばないといけないというのは、思いのほか辛いことでした。

もう一つ、これは提案なのですが、私たちの大学の宿題のほとんどは演習です。演習は実際のモノづくりで技術的な練習にはなるのですが、あくまでマニュアル通りで、なぜそのように作る必要があるのかということとは学べません。海外の大学に行っている友達にはレポートが多いと言います。レポートではなぜそうしたやり方、作り方に至り、完成のためにどのように作業をするのかということをもとめますから、ロジカルシンキング（論理的思考）を磨くことが出来ます。

私たちの場合、作り方は知っていても、なぜそう作る必要があるのかと聞かれたら、すぐに答えられないかもしれない。また、そこから応用して新しいも



北海道・美瑛町で  
インターンシップ  
(左)

アルバイト先の  
クレージーな仲  
間たちと(下)

東京マラソンで  
ボランティア



のを作るためにも、考える能力をもっと養う教育も必要なんじゃないかなあと思うんです。

#### 後輩へのアドバイス

マレーシアの、特に中華系の学生は親や先生から「勉強、勉強！」と言われてみな必死に机に向かっていきます。でもほとんどの子どもは良い成績をとって、良い大学に入ることだけが目標で、何のために自分が勉強するのかわかっていないと思います。でも実際に今大切なのは自分は何をしたいのか考えて見ること。それは将来変わってもいいんです。自分は何が好きなのか、何をしたいのか、どんな性格なのか…。少し立ち止まって考えて見ることをお勧めします。

そしてやりたいと思ったことがあれば貫くことです。最後までがんばればどんな結果で

も受け入れられると思います。がんばらないで何も残らないことが一番残念なことです。それは勉強だけでなく、

好きな趣味のことで何でも。

アルバイトでも最初は日本語もよく聞き取れず怒られたり大変だと思います。辞めてしまいたいと思うかも知れませんが、でもとりあえず「辛い辛い」と思いながらもがんばっていれば自然と慣れて楽になる。なんでもそこまで貫くことが大切だと思います。

私は日本に来てからあまりマレーシア人と付き合いません。母国の人といればもちろん安心できるのですが、せっかく外国に来たのだからその枠から出て新しいものに挑戦した方がいいですよ。知っている所で知っている人

の中にいるのは安全で安心です。でもそれじゃあ新しいものは何も学べません。

だからというわけではないのですが(笑)、私はこれから半年間、中国の大学に交換留学生として行ってきます。留学先の清華大学は中国でもトップクラスの大学で、どんな研究ができるのか、大陸の中国人は日本で出会った中国人とどう違うのか。見てみたいもの、知りたいことがたくさんあります。単位が全て互換できるかわからないのは不安ですが、それ以上に新しい場所で新しい人たちと出会うことに、今はワクワクしています。

## 学校法人 ABK 日本語学校 2019 年度特別企画

### 協定大学・協定機関特別短期日本語研修プログラムを開催

ABK 学館日本語学校（ABK カレッジ）ではアジアの 14 協定大学・協定機関から、22 名の学生を招聘し、6月27日～7月31日の日程で、短期の日本語研修プログラムを行いました。このプログラムの目的は、ABK と協定大学のパートナーシップに貢献し、協定大学・機関の学生に日本語・日本文化を理解する機会を提供することです。参加したのはベトナム、タイ、ラオス、台湾、マレーシア、バングラデシュ、カンボジア、モンゴルの学生たち。彼らは1か月の間、共に ABK カレッジで学び、様々な日本文化を体験しました。

学生の皆さんは国籍に関わらず交流を深め、休みの日には共に旅行に出かけたりもしました。この間の共通言語はもちろん日本語。結果、彼らの日本語は上達し、この初のプログラムは大成功に終わりました。



★ よさこい体験



★ 空手体験

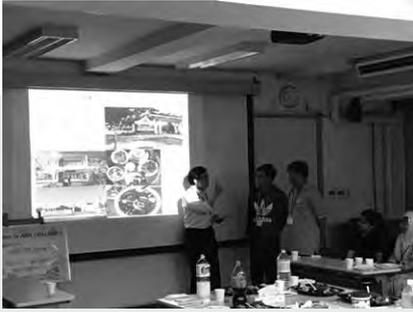


★ 日本人大学生との交流



★ 和太鼓体験

★ 歓迎交流会の様子



バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

# 泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

水谷光一 TNI 学長室専任講師

## ③ タイ・日高校生交流への架け橋

泰日工業大学 (TNI) に学生を送り出してくれている高校はタイ全国内に 300 以上有る。これらの高校はいわば TNI のファンとも言える。その TNI ファンの高校と日本の高校の交流をお手伝いすることで、TNI の魅力をタイ日双方の学生に伝えたいと思っている。

TNI に学生を送り出してくれているタイの 300 以上高校のうち、4 つの高校が毎年 8 月に岡山理科大学附属高校と交流を行っており、私とその引率を行っている。経緯は 2011 年、同高校を運営する学校法人加計学園から TNI と交流を持ちたいと相談があり、同年 9 月 16 日に当時のクリサダー学長と私とで加計学園を訪問し、交流協定を結んだ。

その後、岡山理科大附属高校が、JST が

公募した「スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH)」の対象校になり、国際交流の相手高校を探していると言う事で、TNI に学生を進学させてくれている高校「ボディンデチャー 2 高校」に声をかけ、2013 年 3 月、岡山理科大学附属高校の三垣先生 (英語)、石山先生 (物理) と 17 人の生徒がタイを訪れ交流を行った。(写真1 / 写真2: マングローブ植林)

日本から来た高校生にとって初めての夕



写真 1



写真 2



写真3



写真4

イ。おまけに腰まで泥につかっただけのマンダラック植林、タイの高校生との授業はとても印象深かったであろう。こうして日本の生徒たちにとっては非常に実りあるタイでのサイエンスツアーとなった。

翌年の2014年7月、今度はタイの9つの高校から理科の先生10人を連れて岡山理大附属高校の授業の様子を見学に行った。その際広島原爆博物館、宮島、厳島神社なども見学した。(写真3)

付属高校では、夏休み中にもかかわらず理科の授業をしてくれた。後で聞いた話だが本来授業がない日にわざわざ生徒を呼んで模擬授業を行ってくれたそうだ。(写真4：右はボディンデチャー1高校の生物のカニッター先生)。

翌年2015年には、前述の9校の中から4校に参加してもらい、第一回「岡山サイエンスキャンプ ～タイと日本の高校生の科学・技術交流プログラム～」がスタートした。これ以降、毎年タイの高校4校の生徒は岡山サイエンスキャンプに参加している。

そして5回目となる2019年、私とTNI学生募集課のタモンワンは、4つの高校(バンコククリスチャン高校、シリナカリンウィローット大学附属高校、ワチラタムサーティット高校、トリヤムウドムパッタナカーン高校)それぞれ2、3名の高校生と1、2名の理科教員、そして卒業生、計18名を連れて、8月19日午後7時に岡山に向けてバンコクを発った。

20日、まずは宿舎である御津国際会館(加計学園所有)に入りその後、後楽園と岡山城を見学、女子生徒はお姫様の衣装を着せてもらった。(写真5)

21日は附属高校でタイの各高校がそれぞれ自己紹介を行い、その後付属高の生徒さんたちが岡山案内や附属高校の紹介を行った。これら挨拶や自己紹介は全て英語で行われた。(写真6)

8月24日には日本人の生徒も含め大山(だいせん)国立公園で森林の生態系の観察と樹木から出る酸素、二酸化炭素の吸収率を計算した。そして溪流脇でみんなでお昼の美味しいお弁当を満喫した。(写真7：タ



写真5



写真6



写真7



写真8

イの生徒に森林の生態系について説明するSSH担当高橋和成先生：タイにも3度生徒を連れて来てくれている

最終日である25日には、タイ人、日本人生徒が成果発表会を行い、皆で写真を撮り合ったり、抱き合ったりして別れを惜しんだ。(写真8)

このような高校生レベルの理科学教育を中心とした教育交流を行っているケースは大変珍しいのではないだろうか。

TNIではタイ人・日本人の優秀な高校生を募集し、TNIで学んで学位をとってもらう国際プログラム(工学・情報技術学・経営学の3課程)がスタートしている。TNIで英語で学び大学を卒業したい高校生がいたら、ぜひご連絡をお願いしたい。

(連絡先) E-mail : [tniinfo@tni.ac.th](mailto:tniinfo@tni.ac.th)  
日本語・英語・タイ語対応可能



## 奨学金情報

※各奨学金情報の詳細は必ず実施団体ホームページ等でご確認下さい。

### 伊藤国際教育交流財団 外国人奨学金

**対象:** ① 2020年4月に日本の大学院修士課程に入学する外国人留学生(2019年秋から入学する方を含む。専攻分野は問わない) ② 実施団体の指定する日に面接が受けられること。③ ガイダンス(2020年3月開催)に参加できること。④ 2020年4月1日現在において、年齢が29歳以下の方が望ましい。 ※ 2020年4月1日現在で、年齢が30歳以上になる方は「今、留学を希望する理由」を提出。⑤ 住民票の在留資格から、日本在住であることの確認ができる方。今後、住民票を登録予定の方、または、海外より応募される方は財団事務局ま

で連絡。⑥ 日本語による意思伝達、文章記述ができること。

**支給額:** 月額 18万円

**募集人数:** 12名(2019年度実績)

**支給期間:** 2年以内(修士課程在籍期間)

**応募方法:** 実施団体に直接申し込む

**募集期間:** 10月1日(火)～10月31日(木) 当日消印有効

**実施団体:** 東京都新宿区西新宿3-8-4 BABAビル5階 公益財団法人伊藤国際教育交流財団 外国人奨学金係

ホームページ <http://www.itofound.or.jp/home>

### CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金

**対象:** ① 日本以外の国籍を持つ女性で、2020年度(2020年4月～2021年3月)に日本の大学院に学位取得を目的に在籍していること。② 出願時に勉学を目的に日本に在住していること。英語の小論文を書いて提出すること。③ CWAJ 奨学金支給期間中に日本国または他国政府、他の団体や公的機関から年額150万円を

超える奨学金や助成金を受ける者、企業留学の者は応募できない。ただし、学費ローン、授業料免除および留学先の大学の仕事で得た報酬は助成金にあたらぬ。④ これまでにCWAJから奨学金を受けたことのある者、およびCWAJのメンバーは応募できない。

**支給額:** 200万円

ほしゅうにんずう

**募集人数**：2名

**応募期間**：2019年10月15日（火曜日）－  
10月21日（月曜日）（最終日消印有効）

**応募方法**：実施団体に直接申込み

にほんたいわんこうりゅうきょうかい にほんしやうがくきんりゅうがくせい

**■ 日本台湾交流協会 日本奨学金留学生**

**対象**：①2020年4月1日現在において、日本の大学院の修士課程、専門職学位課程、または博士課程に正規生として進学又は在学する、学業成績が優秀な台湾からの外国人留学生。

②1985年4月2日以降に生まれた者。ただし、今年度当協会奨学金留学生で、支給期間が終了する者が、来年度以降引き続き奨学金支給を希望して応募する場合はこの限りではない。

**支給内容**（2019年度実績）：

（1）奨学金 144,000円（修士課程及び専門職学位課程）、145,000円（博士課程）の月額基本額に加え、特定の地域で修学・研究する者に対して、月額2,000円または3,000円を加算し、予算の範囲内で支給する （2）授業料 他

**支給期間**：2020年4月から、原則として、

ほんじやうこくさいしやうがくざいだん しやうがくきん

**■ 本庄国際奨学財団 奨学金**

**対象**：①日本国籍を持たない者。②2020年4月に大学院に在籍している者。または2020年4月に入学を予定している者。申請時に在籍されていない人も応募可能。ただし2020年秋入学を予定している人は応募不可。

③専門職大学院は原則的に対象外ですが、研究計画書を提出できる場合は、応募可能。④博

がんしよ

**願書ダウンロード**：

<https://cwaj.org/jp/scholarship/jp-njg/>

**ホームページ**：<https://cwaj.org>

進学または在籍する修士、博士または専門職学位課程の学位取得に必要な期間（標準修業年限）とする。（ただし、5年一貫制の大学院にあっては、前期課程及び博士課程に区分して取り扱う。）

**応募方法**：実施団体に直接申込み

**応募締切**：10月25日（金）（当日消印有効）

**願書ダウンロード**：

<https://www.koryu.or.jp/business/scholarship/longterm/detail5/>

**実施団体**：公益財団法人 日本台湾交流協会

〒106-0032 東京都港区六本木3-16-33

青葉六本木ビル7F

TEL 03-5573-2600（内戦14）

E-mail：shougakukin-k1@k1.koryu.or.jp

ホームページ <https://www.koryu.or.jp>

士課程在籍者は、1984年3月31日以降に生まれた者、修士課程在籍者は1989年3月31日以降に生まれた者。⑤大学院修了後、いずれは母国において仕事をする意思のある者。⑥国際親善や交流に理解を持ち、財団で行う行事や同窓生ネットワークに積極的に参加または協力できる者。⑦日本語の日常会話ができ

る者。

**支給期間**：以下の金額と期間のうち、最終目標とする学位取得までの最長年限にあたる期間。

(1) 月額 20 万円を 1 年～ 2 年間

(2) 月額 18 万円を 3 年間

(3) 月額 15 万円を 4 年～ 5 年間。

なお、在籍期間が残り 1 年未満の人は応募できない。そのほかに国際学会に出席するための費用が、奨学金支給規程に基づき支給される。

①奨学金受給期間中は他の奨学金を受給することはできない。②奨学金受給中は、アルバイトはできない。ただしティーチングアシスタント、リサーチアシスタントなど大学や研究に関する仕事ならびに通訳、翻訳、国際交流事業など国際交流に関する一時的な仕事は除く。③奨学金

受給中はほぼ毎月面談するほか、財団で行う行事等に参加することが求められる。

④大学院修了後も同窓会などへ積極的に参加することが求められる。

**募集人数**：15～20名

**募集期間**：2019年9月2日～10月31日

(Web 応募システムの稼働期間)

**応募方法**：団体に直接申込み。奨学金ウェブ申請システムを利用。https://entry.hisf.or.jp

**実施団体**：公益財団法人本庄国際奨学財団事務局 〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 1-14-9

電話 (03) 3468-2214

https://www.hisf.or.jp

## イベント情報

### 第10回 日本インドネシア市民友好フェスティバル 2019

**日程**：2019年10月19(土)、20日(日)

**場所**：代々木公園イベント広場、野外ステージ (東京都渋谷区)

**内容**：インドネシア料理、物販、伝統舞踊、インドネシア人気歌手によるステージ等

**主催**：日伊市民友好フェス実行委員会 indonesiafestival2008@gmail.com

### JOB 博 AUTUMN (外国人留学生のための合同企業説明会)

**日程**：<東京> 2019年11月1日(金) 11:30～16:30 (受付開始 10時30分)

<大阪> 2019年11月4日(月) 11:30～16:30 (受付開始 10時30分)

**場所**：<東京> パナソニックグループ本部 (東京都千代田区大手町 2-6-2)

<大阪> 大阪梅田スカイビル (タワーウエスト 10階) アウラホール

(大阪市北区大淀中 1-1-88)

**内容**：企業ブース 15社 (予定・大阪)、20社 (予定・東京) + 就職活動セミナー

**主催**：株式会社 パナソニック グローバル https://job-haku.com

# MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2019年4月

## 特別会員

(5口)

(株)スリーエーネットワーク

## 賛助会員

(1口)

筑波研究学園

## 正会員

(2口)

柳瀬 修三

バンクク

林 均

横浜市

(1口)

石川 清子

渋谷区

高橋 作太郎

静岡市

泉 憲子

日野市

小川 巖

入間市

飯沼 英郎

鎌倉市

駒場 一成

大田区

坪井 健

横浜市

久保 哲也

北区

脇 英親

文京区

濱田 修

松原市

勝山 桂香

千葉市

高道 俊彦

富山市

本村 博志

豊島区

鶴尾 能子

横浜市

大野 大平

北区

田中 利恵子

東村山

熊沢 敏一

神戸市

中曽根 信

由布市

中村 尚司

京都市

菊地 絵里奈

葛飾区

守屋留学生交流協会

千代田

橋本 イスラムヌルール

坂戸市

奥山 義夫

町田市

松本 誠一

文京区

赤星 裕

船橋市

国士舘大学

世田谷区

倉内 憲孝

池田市

出澤 正徳

鶴ヶ島市

堀口 元生

神戸市

馬杉 栄一

札幌市

愛知淑徳大学

名古屋市

荒川 雄彦

北杜市

坂詰 貴司

船橋市

田井 亮吉

神戸市

## ご寄附

太田 京子

神戸市

小川 巖

入間市

松浦 秀嗣

国分寺市

北 マツ

印旛郡

山口 憲明

日野市

田中 利恵子

東村山

奥山 義夫

町田市

中野 正明

国立市

早乙女 和義

岡崎市

綿貫 勤

秋田市

2019年5月

## 特別会員

(1口)

来山 文泰

文京区

## 正会員

(1口)

真弓 忠

渋谷区

今泉 雅勝

墨田区

東京都太田記念館

杉並区

大杉 立

つくば市

竹嶋 栄子

松戸市

岩尾 明

日田市

千野 克子

墨田区

## ご寄附

中田 有智子

国分寺市

酒井 杏郎

渋谷区

根岸 幸子

逗子市

河原 順一

東村山市

奥平 龍二

東大和市

2019年6月

## 正会員

(2口)

孟令樺 / 計宇生

渋谷区

(1口)

内山 敦之

中野区

野口 明美

三鷹市

木村博 / 劉彩品

川崎市

山田 守一

港区

大田原 康彦 / 真澄

仙台市

忍足 林基

江東区

酒井 杏郎

渋谷区

宮原 彬

朝霞市

赤星 裕

船橋市

大島 京子

秦野市

竹林 惟允

練馬区

井上 美和子

文京区

林 登居 / ひさ子

八千代市

堀 幸夫

杉並区

広江 重徳

浅口郡

福本 一

船橋市

## ご寄附

榊 正義 / 正子

港区

大田原 康彦 / 真澄

仙台市

綿貫 勤

秋田市

竹林 惟允

練馬区

大島 京子

秦野市

平峯 克

川崎市

山口 憲明

日野市

皆様の暖かい御支援に  
感謝申し上げます

## ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

## 協会のあらまし

名称：公益財団法人アジア学生文化協会  
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 白石勝己

設立：1957年（昭和32年）9月18日  
故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

## ◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

## ◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円  
賛助会員 1口 5万円  
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間2千円（十税）でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

## 『アジアの友』発行回数変更のお知らせ

諸般の事情につき、2019年度より本誌『アジアの友』は昨年度までの年6回発行から、年4回の発行に変更をさせていただきます。定価は従来通り1部500円（税別）です。発行回数の変更に伴い、ご迷惑をおかけすることになりますが、今後とも引き続きご高配賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 後記

世界中が目まぐるしく変動しており目が離せないことが多い昨今だ。東アジアだけでも、米朝対話、米中貿易摩擦のゆくえとその影響は目が離せない。また香港では「逃犯条例の改正案」に反対して200万人にも上る抗議デモに発展し、遂にその撤回に至るも、いまだデモは続いている。また、日韓では昨年「徴用工」をめぐる問題が解決をみず、今や深刻な経済問題、安全保障問題にまで発展し、最悪な状態が続いている。日本に留学中の学生に話を聞いてみると、夏休みに一度香港に戻ってきたが、友達も頑張っているし、やはり今家族のことは心配だと。韓国の学生は、親から時々大丈夫かと心配した電話がかかってくるが、心配ないと伝えていた。また、できるだけ外では韓国語は話さないようにしているという人もいた。解決の糸口が早く見つかることを願うばかりである。

すでにご存じのことと思うが、少子化による不足する労働力確保のため、今年4月から外国人労働力の受入れが始まった。そのため出入国在留管理庁が設置され新しい在留資格、特定技能（「特定技能1」、「特定技能2」）が新設され、5年間に34.5万人の外国人労働者の受入が予定されている。人材不足の深刻な14業種に限られるが、一定の技能と日本語力がある外国人に就労を認めるもので、初めて単純労働の外国人材の受入が開始されたことをお伝えし、来日される方々の温かい見守りができればと思う次第。（F）

（お詫びと訂正）

本誌前号 No.538 でご紹介している「新星学寮建替募金」ご寄付者のお名前の漢字表記に間違いがありました。お詫び以下下記の通り訂正をいたします。  
P29 下から4行目（は）のところ（誤）浜崎永壽 →（正）浜崎長寿

## アジアの友 2019年度 7-9月号

2019年9月10日発行（通刊第539号）

年間購読（送料共）2,000円+税 1部 500円+税

発行人 白石勝己  
編集 アジアの友編集部  
発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会  
東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)  
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599  
振替口座：00150-0-56754 E-mail：tomo@abk.or.jp  
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by THE ASIANSTUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagoe, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email：tomo@abk.or.jp

Home Page：http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話にてお願いいたします。

18th ABK

# 秋祭り

AUTUMN FESTIVAL

入場無料

10月26日(土)

1200 - 1600

アジアの各国料理

パフォーマンス

[主催]  
ABK 留学生会  
公益財団法人アジア学生文化協会  
学校法人 ABK 学館

[協力]  
東京後楽ロータリークラブ  
ココ・コラボトラーズジャパン株式会社  
[連絡先]  
アジア文化会館 TEL :03-3946-4121

